

科目名	グローバル公共政策演習B
担当者	山本武彦
配当学期	秋学期
単位	—
授業概要	従来、国際社会における主要アクターは排他的主権を有する国家とみなされてきた。しかし、21世紀に入った国際社会は国家に留まらず様々な国際機関や国家内部の自治体、企業、個人などが織り成す多層的で重層的な相互作用によって覆われるようになってきている。このような現象は、環境保全、自然災害など従来の国際関係論が対象としてこなかった人間存在そのものを問う公共圏の広がりをもたらし、国際公益の概念にさらなる修正を迫る。本演習では、このような基本認識にたつて国際公共政策をグローバル経営—国際地域経営—国家経営—地方経営—企業経営—市民社会経営の構造的なリンケージのなかで捉え直す。
授業の到達目標	国際社会における公共空間の拡大を踏まえた公共政策の国際化現象を多面的かつ複眼的に捉え、国際公共政策のあり方を考える。
授業計画	① 国家経営論（ステートクラフト）の伝統的な意味—国家中心型認識モデル ② 国家経営論の意味の変化—ガバナンス構造の7層化との関連で ③ 国際公共政策論の現代的意義—グローバル公共圏、市民的公共圏、親密圏のもつ政治的・経済的・社会的意義との関連で以上の講義を踏まえて、演習参加者それぞれの公共政策に係る問題意識（例・郵政民営化、電源立地問題、基地問題、環境問題、人権問題など）について、越境・交差するガバナンスという観点から参加者自身が報告し、参加者全員で討議する。クールごとに課題レポートを提出することが求められる。
教科書	テキスト：①山本武彦著『安全保障政策—経世済民・新地政学・安全保障共同体』日本経済評論社、②庄司真理子・宮脇昇編『グローバル公共政策論』晃洋書房、③山本武彦編『地域主義の国際比較』早稲田大学出版部、④メアリー・カルドー著、山本武彦他訳『グローバル市民社会論』法政大学出版会
参考文献	

成績評価方法	評価基準	
試験 %		
レポート %		
平常点評価 %		
その他 100%	演習参加者の報告内容、討議への参加姿勢、課題レポートの内容を評価の主要なポイントにする	
関連 URL		
備考	<p>この演習は国政、地方行政に携わる者やこれから携わろうとする者はもちろんのこと、企業のCSR活動や様々なNGO・NPO運動に携わり、これから携わろうとしている人たちのために設置される。演習参加者には、急速に拡大する公共空間の持つ意味について鋭敏な問題関心を持つことが何よりも要請される。同時に物怖じしない積極的な発言を通じて、独創的な発信力をこの演習を通じて体得していただきたい。</p>	